

県央

三条総局 〒955-0092 三条市須賀2-89
0256(33)0408 FAX(33)3347

三条市

機能集約新施設建設へ

体育文化センター！総合体育館を解体

三条市は大規模地震で倒壊の恐れがあり、原則利用を中止している体育文化センター(荒町2)の建て替えに合わせ、隣接する総合体育館も解体し、新たに機能を集約した複合施設を現在地に建設する方針を14日までに決めた。早ければ7月にも両施設の解体を始める。基本設計の策定も急ぎ、新施設の供用開始は2019～20年度を目指す。



三条市が複合施設に建て替える方針を決めた体育文化センター(左)と総合体育館14日、三条市荒町2

19～20年度 利用目指す



体育館の解体と新施設への機能集約は、昨年12月に市体育協会が市に要望していた。体育館は1979年の建設で、72年の体育文化センターより新しいが、老朽化が目立ち、雨漏りなども発生している。

市は体育館の老朽化への対応が今後、避けられないことや機能集約で設計の幅が広がること、また、公

共施設の複合化を促す国の支援制度などの活用で財政負担も減らせるとし、決断した。16日に体育や文化団体関係者らでつくる検討委員会を立ち上げ、施設に盛り込む機能の議論を始める。

市は市議会3月定例会に提出する2016年度当初予算案に解体費用を計上するほか、両施設の廃止に関する条例も提案する。解体、新施設の建設に伴い、市民が利用できない期間が3、4年間の長期に及ぶと予想されるため、工区を分け、完成部分から供用を始めることも検討する。

市体育協会の野崎勝康会長は、市の方針決定について「要望を真剣に受け止めてもらった早い決定であり、ありがたい」とし、「利用制限は長期になるが、施設が一体になれば、さまざまな運用ができる。新施設づくりにも協会も知恵を絞りたい」と話した。

野崎さんは「発達障害の改善には早期発見、早期支援が大切なので、ゼロ歳児から受け入れたい。気軽に相談してほしい」と話している。

野崎さんは「発達障害の改善には早期発見、早期支援が大切なので、ゼロ歳児から受け入れたい。気軽に相談してほしい」と話している。

大きく育った



カレイやさんになりました。いすです。

池田 悠佑

燕市・小中川小1年 ぼくは、カレイやさんになりました。いすです。なぜなら、カレイやさんが大きいです。おうちでは、おあざんとおばあちゃんがあまくておいしいカレイやさんをつくってくれます。ぼくは、それにまけないくらいおいしいカレイやさんをつくりたいです。そして、たくさんのおきやくさんから「おいしい」といってもらいたいです。

自由帳

長岡市・桂小 4年



私には3年生の秋からそろばんを習っています。最初は

土田 和佳菜

コツがつかめなくて苦労したけど、練習をしているうちにできるようになったので、すごく楽しくなりました。今は暗算にもちよう戦っていて、3

磨き全国V狙う

あす世界切符懸け大会

長岡市の小学生サッカーチーム「Reiz(ライツ)長岡FC」が、16日に埼玉スタジアム(さいたま市)で開かれるスポーツチェン店主催の全国大会に出場する。北信越大会は無失点で優勝。持味の守備力にさらに磨きをかけ、「全国制覇して世界大会に出る」と意気込んでいる。

ライツ長岡は2010年に発足。上川西小の児童ら約40人が所属している。出場するのは「スポーツオーソリティカップ2015」。全国の地域予選を勝ち抜いた10チームが参加する。優勝チームは5月にパリで開かれる世界大会への出場権を得られる。

ライツ長岡は、9月に聖籠町で開催された北信越大会で、予選を突破した16チームによるリーグ戦と、成績上位4チームによるトーナメント戦を勝ち抜いた。

チームの特徴は、北信越大会全5試合を無失点で勝った守備力だ。単に守るだけでなく、攻撃のための準備を怠り、早くボールを

発達障害療育施設 燕に4月オープン

未就学児も受け入れ

燕市内の発達障害などが「サービスマ」を提供する事業所である子どもたちに療育支援「つばめ療育館」が4月、



4月のオープンに向け利用希望者の相談に応じる「つばめ療育館」の野瀬清一代表=13日、燕市助新

提供するサービスマは、児童福祉法に基づく「児童発達支援事業」(未就学児対象)と、「放課後等デイサービス事業」(小中学・高校生対象)で、定員は1日各10人。独自のプログラム

野瀬さんは市社協で子ども向け療育支援を手掛け、も向け療育支援を拡大したい」と起業を決断。新たに取得した土地に、木造平屋建ての療育施設(面積約260平方メートル)を昨年10月に建設した。近く県の指定を申請する。

野瀬さんは「発達障害の改善には早期発見、早期支援が大切なので、ゼロ歳児から受け入れたい。気軽に相談してほしい」と話している。

県央マイスター制度

10周年祝い記念シンポ

県央地域の優れた産業技術を持つ人を認定し、技術者育成の活動を行う「にいがた県央マイスター制度」の10周年記念シンポジウムが30日、三条市須賀1の燕三条地場産業振興センターリサーチコアで開かれる。第10回にいがた県央マイスターの認定証授与式の後、制度10周年の歩みの紹介や、長岡技術科学

30日、三条

無料。先着120人。22日までに県三条地域振興局のホームページから申し込む。

問い合わせは同地域振興課、0256(36)2205。アドレスは <http://www.pr.ef.niigata.lg.jp/sami/>

きょうから大槌ほたてフェア 食べて復興を応援



フェア開催を前に開かれたホタテ料理の試食会=13日、長岡市栃尾宮沢

延長した。フェアに先立つ13日には、栃尾宮沢の洋食店で試食会を企画。大槌湾ほたて養殖組合のメンバーのほか、飲食店主ら約30人が「素材のうま味を生かしている」といった意見を交わした。ホタテ料理は、道の駅R290とちのお内の「レストランとちのお」などで提供される。栃尾観光協会の井田